

会 議 議 事 録

1. 日時等

日時	令和 6 年 5 月 21 日（金） 13:00～14:50
場所	日之影町民ホール
会議名	令和 6 年度第 2 回日之影町地域公共交通会議

2. 開会

3. 会長あいさつ

4. 報告事項

○事務局より以下の事項について説明を行い、その内容について質疑・意見交換及び採決を行った。

（１）すまいるバス循環線の見直しについて

※質疑等なし。

事務局

総合計画等の検討において実施した中学生による「ひのかげ近未来会議」のなかで、土曜日の図書館利用や部活動などで利用したいといった要望があったことを踏まえて運行を開始した経緯がある。ただし実際には保護者が送迎することが多く、循環線（土曜日）は利用されていないのが実情となっている。

※議事については提案の通り承認された。

5. 議事

○事務局より以下の事項について説明を行い、その内容について質疑・意見交換及び採決を行った。

（１）すまいるバス集落線の見直しについて

大井委員

見立線の「よりみち停留所」について、利用者は僅かであるため仮に“よりみち”が発生して遅延したとしても大きな影響はないという判断ではないかと思う。

時刻表に「よりみち停留所」の時刻の記載がない。中心部からの復路であれば記載する必要はないものと考えられる。また、自家用有償旅客運送であればそもそもダイヤという概念もないが、利用者からみれば中心部へ向かう往路については時刻の表示があったほうが望ましいのではないかと思う。

久留米市の例では、よりみちバス停のほうが多く利用が増えて正式なバス停として格上げするなど頻繁な調整を実施している。想定される遅延時間が 9 分だと“よりみち”としては長いため、どこかにクッションになるようなところを設けて調整する必要があるかもしれない。

建設技術研究所 見立線については運行距離に対して所要時間が長い印象を受けており、“よりみち”分の時間をどこかに折り込むとすると停車して待つ時間が長くなる。「早発」などを誘発しかねないためどのような調整が可能か検討したい。

「よりみち停留所」の発時刻については、時刻表示がないといつ来るか分からないため、目安の時刻を表示する方向で見直しを行う。

※議事については提案の通り承認された。

(2) 予約型乗合交通の本格運行について

※質疑・意見等はなく、議事については提案の通り承認された。

(3) すまいるバス八戸線の見直し・本格運行について

工藤委員 今後の自家用有償旅客運送や地域内フィーダー系統補助の申請手続きなどについても「通常ルート」と「迂回ルート」で分けた形で進めていく予定としているのか。

事務局 道路の時間通行規制が解除される時期が明確になっていないため、現時点ではそれぞれ別系統として分けた形で進めていくことを想定している。

松山委員 現時点では、八戸から東側の区間は7月末、神影～吾味の区間は12月頃には工事完成予定であると聞いている。ただしこれから梅雨シーズンで更なる被災なども懸念されることから、現時点では確定的な予定はお示しできない状況である。

事務局 道路の時間通行規制解除の時期が明確になった時点で、運行計画の変更等の対応を行いたい。

大井委員 路線バス延岡～高千穂線については、旧道の道路復旧が完了しても従来の旧道経由ルートでの運行に戻すことはないという認識でよいか。

田丸委員 宮崎交通としては元のルートに戻すことは考えていない。

大井委員 八戸線の迂回ルートと、路線バス延岡～高千穂線の乗り継ぎについて、八戸線が町立病院⇒役場⇒町立病院と町立病院を2回経由する「2回目」で接続する形になっている。利用者にしてみれば最初に町立病院に到着したところで乗り継ぎできるほうが無駄がなくてよいのではないか。

建設技術研究所 後ほどご説明する八戸線迂回ルートと循環線との乗り継ぎについては、ご指摘のような形で最初の町立病院停車時刻にあわせて乗り継ぎできるように調整している。八戸線についても同様の対応ができないか改めて検討する。

※議事については提案の通り承認された。

(4) すまいるバス循環線の見直しについて

甲斐会長 冒頭に報告があった今年6月からの時刻表からは9時台の便の町立病院発時刻のみ

が変更される、という認識で良いか。

建設技術研究所 結果的に、その他の便については変更を行わなくても八戸線迂回ルートからの乗り継ぎが確保されることが確認されたため、9時台の便のみの変更となる。

※議事については提案の通り承認された。

(5) 「日之影町地域公共交通計画」の改定について

椎葉委員 青雲橋と舟の尾の間に「新たに設定する拠点」の記載があるが、これは具体的にはどこを想定しているのか。

建設技術研究所 計画策定段階では、八戸地区の住民の買い物の場所などにもなっている「元気村」を拠点にできないか、といった議論があったが、現実的には難しい状況となっている。路線バスと八戸線の乗り継ぎポイントを舟の尾としているが、現状では小さな上屋があるだけであるため、今後、舟の尾を「新たな交通拠点」として位置付けて乗り継ぎ環境を整備していくことなども考えられる。

甲斐会長 内容的には昨年度から検討・実証事業を実施してきたものを反映させたものであり、計画の改定については特段の問題はないように感じる。

※議事については提案の通り承認された。

(6) 地域内フィーダー系統の交付申請について

大井委員 計画の策定やその後の検討・実証事業の実施などについては、住民・利用者代表なども参加している地域公共交通会議で協議を行い、意見を反映させてきているため、計画「別紙」の「19. 利用者等の意見の反映状況」にはその旨を追記してはどうか。

事務局 ご指摘を踏まえて、修正を行う。

※議事については提案の通り承認された。

6. その他

○次回の会議については、現時点ではスケジュールが未定であるが、八戸線や予約型乗合交通が10月から本格運行に移行する予定であるため、本格運行が開始され利用状況などがある程度見えてきたタイミングなどでの開催を検討したい。日程等については決まり次第改めてご連絡差し上げる。

7. 閉会

以 上